

高校国語 専門問題例

例一 次の文章を読んで、(1)～(6)の問いに答えなさい。(設問の都合上、表記を改めた箇所がある。)

(本文省略)

- (1) 波線部ア～エのカタカナを漢字に直して書きなさい。
点線部「激しい競争を経験してきた」を例にならって単語に分けなさい。
(例) 雨ーがーやみー雲間ーからー光ーがーさす。
(2) 二重傍線部「解放」の対義語を漢字二字で答えなさい。
(3) 傍線部A「量的なエネルギーの大きさという面と、ベクトルの多様さという質的な面」とあるが、「量的な面」と「質的な面」とはどういうことか。それぞれ三十以上四十字以内で答えなさい。
(4) 傍線部B「ふるさととは他人との『つながり』による満足を約束するはずである」とあるが、その理由を八十以上九十字以内で答えなさい。
(5) 筆者は本文において、「新しいふるさと」とはどういうものだと言っているか。八十以上九十字以内で答えなさい。

(令和三年度)

例二 次の文章は、作者の子が賭弓のりゆみ(宮中で行われる弓の競技)の射手に選ばれたことに関する内容が書かれている。これを読んで、(1)～(7)の問いに答えなさい。

人は、めでたく造りかかやかしつるところに、明日なむ、今宵なむと、ののしるなれど、われは、^A思ひし^もしるく、かくてもあれかしになりたるなめり。されば、げに懲りにしかばなど、思ひのべてあるほどに、三月十日のほどに、内裏の賭弓のことありて、いみじくいとなむなり。幼き人、しりへの方にとられて出でにたり。「方勝つものならば、その方の舞もすべし」とあれば、このごろは、よろづ忘れて、このことを急ぐ。舞ならずとて、日々に樂をしののしる。出居につきて、賭物とりてまかでたり。^Bいとゆゆしとぞうち見る。

十日の日になりぬ。今日ぞ、ここにて試樂のやうなることする。舞の師、^C多好茂おほのよしもち、女房よりあまたの物かづく。男方も、ありとあるかぎり脱ぐ。「殿は御^D物忌なり」とて、をのこどもはさながら来たり。事果てがたになる夕暮に、好茂、胡蝶楽舞ひて出で来たるに、黄なる^E単衣ひとえ脱ぎてかづけたる人あり。折にあひたるここちす。また十二日、「しりへの方人さながら集まりて舞はすべし。ここには弓場なくて悪しかりぬべし」とて、^Fかしこにののしる。「殿上人数を多くつくして集まりて、好茂埋もれてなむ」と聞く。われはいかにいかにと^Gうしろめたく思ふに、夜更けて、送り人あまたなどしてもものしたり。さて、とばかりありて、人々あやしと思ふに、はひ入りて、「これがいとらうたく舞ひつること語りになむものしつる。みな人の泣きあはれがりつること。明日明後日、物忌、いかにおぼつかかなからむ。五日の日、まだしきに渡りて、こどもはすべし」など言ひて、帰られぬれば、^H常はゆかぬこちも、あはれにうれしうおぼゆることかぎりなし。

(『蜻蛉日記』より。)

(注)「人」＝作者の夫。(この時、夫は新邸を造営したばかりであった。)

「しりへ」＝(弓の競技の)後手組。 「出居」＝練習場。

「五日の日」＝十五日。(この日に賭弓が催されることとなった。)

(1) 二重傍線部 a・b の漢字の読みを、それぞれ現代仮名遣いで答えなさい。

(2) 次の文は、波線部「なめり」について説明したものである。空欄にあてはまる言葉を答えなさい。

「なめり」は断定の助動詞の①形に②の助動詞の終止形が接続した「なるめり」の撥音便「③」の撥音が無表記となったものである。

(3) 傍線部 A・B を、それぞれ現代語訳しなさい。

(4) 傍線部 C について、「かしこ」の指す内容を明らかにして、現代語訳しなさい。

(5) 傍線部 D とあるが、何に対してそう思っていたのか、「ということ」に続く形で、二十字以内で説明しなさい。

(6) 傍線部 E について、その理由を三十五字以上四十文字以内で説明しなさい。

(7) 次のア～エを、成立した年代の古いものから順に並べ、記号で答えなさい。

ア 蜻蛉日記 イ 十六夜日記 ウ 土佐日記 エ 更級日記

(令和三年度)

例三 次の文章を読んで、(1)～(6)の問いに答えなさい。(設問の都合上、表記を改めた箇所がある。)

荀巨伯、遠看友人疾、值胡賊攻郡。友人語巨伯曰、吾、今死矣。子、可去。巨伯曰、遠来相視、子令吾去。

敗義以求生、豈荀巨伯所行邪。賊既至、謂巨伯曰、大

軍至、一郡尽空、汝、何男子而敢独止。巨伯曰、友人

有疾、不忍委之。寧以我身代友人命。賊相谓曰、我

輩無義之人、而入之。遂班軍而還。一郡並

獲全。

(『世説新語』より。)

(注)「荀巨伯」＝河南省の人。後漢桓帝のころの人。

「胡賊」＝北方の異民族。

「相視」＝会って安否を確かめること。

「班軍」＝軍隊を引き返すこと。

- (1) 波線部①③の漢字の読みを送り仮名も含めて現代仮名遣いで書きなさい。
(2) 傍線部 A をすべてひらがなで書き下し、現代語訳もしなさい。
(3) 傍線部 B を「所行」の内容を具体的に示して現代語訳しなさい。
(4) 傍線部 C とは対照的な部分を抜き出ささい。ただし、訓点は含まない。
(5) 本文中の□に入る最も適切な語を、漢字二字で書きなさい。

(6) 傍線部Dとあるが、このような結末に至ったのはなぜか。本文の内容を踏まえて二十
五字以上三十五字以内で説明しなさい。

(令和二年度)

例四 高等学校学習指導要領「第2章 各学科に共通する各教科」「第1節 国語」の内
容について、(1)～(3)に答えなさい。

(1) 次の文は、「第1款 目標」の一部である。文章中の①～⑥にあてはまる語
句を答えなさい。

(2) 生涯にわたる①における②との関わりの中で③を高め、思考力や
想像力を伸ばす。

(3) 言葉のもつ④への認識を深めるとともに、言語感覚を⑤、我が国の言
語文化の⑥としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向
上を図る態度を養う。

(2) 次の文は、「第2款 各科目」「第1 現代の国語」「2 内容」「知識及び技能」の
一部である。文章中の①～④にあてはまる語句を答えなさい。

(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることがで
きるよう指導する。

ア 主張と①など情報と情報との関係について理解すること。

イ 個別の情報と②された情報との関係について理解すること。

ウ ③の仕方を理解し使うこと。

エ 情報の④や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。

(3) 次の文は、「第2款 各科目」「第2 言語文化」「2 内容」「思考力、判断力、表
現力等」の「B 読むこと」の一部である。①～⑤にあてはまる語句を後の a
～j から選び、記号で答えなさい。

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 文章の①を踏まえて、内容や構成、展開などについて②を基に的確
に捉えること。

ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について③すること。

エ 作品や文章の成立した④や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈
を深めること。

オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我
が国の言語文化について自分の⑤をもつこと。

- | | |
|----|----|
| f | a |
| 理解 | 思い |
| g | b |
| 評価 | 考え |
| h | c |
| 吟味 | 叙述 |
| i | d |
| 背景 | 過程 |
| j | e |
| 種類 | 描写 |

(令和二年度)

例五 次の文章を読んで、(1)～(7)の問いに答えなさい。(設問の都合上、表記を改めた箇所がある。)

北山の辺に^Aよしある所のありしを、はかなくなりし人の領ずる所にて、花の盛り、秋の野辺など見には、常に通ひしかば、誰も見し折もありしを、ある聖の物になりてと聞きしを、^Bゆかりあることありしかば、せめてのことに、忍びて渡りて見れば、面影は先立ちて、また^Cかき暗さるるさまぞ、言ふ方なき。磨きつくろはれし庭も、浅茅が原、蓬が柚になりて、葎も苔も茂りつつ、ありしけしきにもあらぬに、植ゑし小萩は茂りあひて、北南の庭に乱れ伏したり。藤袴うちかをり、ひとむらすすきも、まことに虫の音繁き野辺と見えしに、車寄せて下りし妻戸のもとにて、ただひとり^Dながむるに、さまざま思ひ出づることなど、言ふもなかなかなり。例のものも覚えぬやうにかき乱る心の内ながら、

^E露消えしあとは野原となりはててありしにも似ず荒れはてにけり

跡をだに形見に見むと思ひしをさてしものとどかなしさぞ添ふ

東の庭に、柳桜の同じ丈なるを交ぜて、あまた植ゑ並べたりしを、ひととせの春、もろともに見しことも、ただ今の心地するに、梢ばかりは、さながらあるも、心憂く悲しくて、

^F植ゑて見し人はかれぬるあとになほ残る梢を見るも露けし

わが身もし春まであらば尋ね見む花もその世のこと()忘れそ

(注)「はかなくなりし人」＝この人と作者とは恋愛関係にあった。
〔建礼門院右京大夫集〕より。

(1) 傍線部 A・D の意味をそれぞれ答えなさい。

(2) 傍線部 B を、その相手を補って現代語訳しなさい。

(3) 傍線部 C とはどのような様子か。その理由も明らかにして五十字以上六十字以内で説明しなさい。

(4) 傍線部 E について、次の a・b に答えなさい。

a ここで用いられている和歌の技巧を説明しなさい。

b 「ありし」を簡潔に言い表している箇所を九字で抜き出しなさい。

(5) 傍線部 F を現代語訳しなさい。

() にあてはまる副詞を答えなさい。

(6) 「建礼門院右京大夫集」と成立した時代が同じである作品を、次のア～エから二つ選

び、記号で答えなさい。

ア 十六夜日記

イ 和漢朗詠集

ウ 風姿花伝

エ 発心集

(令和元年度)

例六 次の文章を読んで、(1)～(6)の問いに答えなさい。(設問の都合上、表記を改めた箇所がある。)

伝^ニ曰^フ、賞^ヲ疑^{ハシキハ}從^フ与^{フルニ}。所^ニ以^テ広^{ムル}恩^ヲ也。罰^ヲ疑^{ハシキハ}從^フ去^{ルニ}。所^ニ以^テ慎^ム

刑^ヲ也。当^{リテ}堯^ガ之^ニ時^ニ、皐^{カウ}陶^{カウ}為^ル士^ト。将^レ殺^ス人^ヲ。皐^{カウ}陶^{カウ}曰^フ、殺^{サント}之^ヲ三^{タビ}

堯^ガ曰^フ、宥^ユ之^ヲ三^{タビ}。故^ニ天^ニ下^ニ畏^レ皐^{カウ}陶^{カウ}。執^ル法^ヲ之^ヲ堅^キ、而^{シテ}樂^{シメリ}堯^ガ

用^{フル}刑^ヲ之^ヲ寛^{ナルヲ}。四^ニ岳^ヲ曰^ク、鯀^{こん}可^シ用^フ。堯^ニ曰^ク、不^{ナリ}可^レ鯀^ヲ。方^{はう}命^ヲ圯^{やぶ}族^ヲ。
 既^{ニシテ}而^ヲ曰^ク、試^ミ之^ヲ。何^ニ堯^ノ之^ヲ不^{シテ}聴^カ。皐^ニ陶^ノ之^ヲ殺^{サントスルヲ}。人^ヲ而^ニ從^{ヘル}。四^ニ岳^ヲ
 之^ヲ用^{ヒントスルニ}。鯀^ヲ也。然^{ラバ}則^①聖^ニ人^ノ之^ヲ意^ヲ、蓋^②亦^ニ可^シ見^ル矣。書^ニ曰^ク、罪^ヲ
 疑^{ハシキハレ}惟^{クセヨ}輕^ク功^ノ疑^{ハシキハレ}惟^{クセヨ}重^ク。与^③其^ノ殺^{サン}不^ニ辜^ニ、寧^ロ失^{セヨト}不^ニ經^{ケイニ}。嗚^ニ呼^フ
 尽^{セリ}之^ヲ矣。可^ク以^テ賞^ス、可^シ以^テ無^{カル}賞^{スル}。賞^{スレバ}之^ヲ過^グ乎^ニ仁^ニ。可^ク以^テ罰^ス、可^シ
 以^テ無^{カル}罰^{スル}。罰^{スレバ}之^ヲ過^グ乎^ニ義^ニ。過^{グルハ}乎^ニ仁^ニ、不^レ失^ハ為^{ルヲ}君^ニ子^ニ。過^{グレバ}乎^ニ義^ニ、
 則^チ流^{レテ}而^ニ入^ル於^ニ忍^{にん}人^{じんニ}。故^ニ仁^ハ可^レ過^グ也、義^ハ不^レ可^レ過^グ也。

（『続文章軌範』より。）

（注）「伝」|| 古い書物。

「土」|| 裁判官。

「方命」|| 命令を放置すること。

「不辜」|| 無実の人。

「堯之時」|| 堯帝の時代。

「四岳」|| 四方の諸侯。

「圯族」|| 善人を害する。

「失不經」|| 法に従わないこと。

「皐陶」|| 帝の臣下。

「鯀」|| 人名。

「書」|| 「書経」。

「忍人」|| 残忍な人。

- (1) 波線部①〜③の漢字の読みを送り仮名も含めて現代仮名遣いで書きなさい。
 (2) 傍線部Aを書き下し、現代語訳もしなさい。
 (3) 傍線部Bは誰をどうすることか。十字以内で答えなさい。
 (4) 傍線部Cを現代語訳しなさい。
 (5) 傍線部Dが表す内容とほぼ同意の部分本文の中から漢字二字で抜き出しなさい。
 (6) 傍線部Eとあるが、「仁」は過ぎててもよいが「義」は過ぎてはいけないという理由を、「仁」と「義」を対比しながら、四十字以上五十文字以内で説明しなさい。

（令和元年度）

問題番号		正 答 例																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
例一																										例二						例三						例四																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
(1)	(2)	(3)	(4)			(5)	(6)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(3)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
ア	顕著	イ	寿命	ウ	模索	エ	富裕	激しい一競争一を一経験し一て一き一た	拘束、束縛	量的な面	団塊の世代が退職後、自然や人とのつながりを求めてふるさとに向かう流れのこと。	質的な面	さまざまな目的意識でふるさとに移り住み、ふるさを日常の生活の場にする	ふるさととの維持には、人とのつながりをつくり出す行動を積み重ねる長い時間が必要であるが、そのぶんつながりが信じられるものとなり、生涯にわたる幸福を与えてくれるものとなるから。	ふるさとが外に開かれ他の地域に住む人びとと結びつくという観点と、ふるさとという意識と一体感を持つ人びとの内なる活動という観点の二つが、相互に働きあつて形づくられるふるさとのこと。	a	もののいみ	b	ひとえ	①	連体(形)	②	推量	③	なんめり	A	思ったとおり	B	たいそうすばらしい	夫の家で大騒ぎする。	わが子が無事に舞うことができたかどうか(ということ)	わが子の立派に舞った姿を夫がたいそう誇らしく感じていることがわかったから。	ウ↓ア↓エ↓イ	①	べし	②	ことごとく	③	むしろ	書き下し文	現代語訳	あなたはおわたしに逃げさせようとする。	どうして荷巨伯は友人を見捨てて自分が生き延びる行いをしようか。いやしない。	(大軍至)一郡尽空	有義	友人思いの荷巨伯の言動に賊たちが感心し、攻撃するのをやめたから。	①	社会生活	②	他者	③	伝え合う力	④	価値	⑤	磨き	⑥	担い手	③	推論	④	一般化	⑤	妥当性	④	論拠	①	妥当性	②	一般化	③	推論	④	一般化	⑤	妥当性	⑥	論拠	⑦	推論	⑧	妥当性	⑨	論拠	⑩	推論	⑪	妥当性	⑫	論拠	⑬	推論	⑭	妥当性	⑮	論拠	⑯	推論	⑰	妥当性	⑱	論拠	⑲	推論	⑳	妥当性	㉑	論拠	㉒	推論	㉓	妥当性	㉔	論拠	㉕	推論	㉖	妥当性	㉗	論拠	㉘	推論	㉙	妥当性	㉚	論拠	㉛	推論	㉜	妥当性	㉝	論拠	㉞	推論	㉟	妥当性	㊱	論拠	㊲	推論	㊳	妥当性	㊴	論拠	㊵	推論	㊶	妥当性	㊷	論拠	㊸	推論	㊹	妥当性	㊺	論拠	㊻	推論	㊼	妥当性	㊽	論拠	㊾	推論	㊿	妥当性	1	論拠	2	推論	3	妥当性	4	論拠	5	推論	6	妥当性	7	論拠	8	推論	9	妥当性	10	論拠	11	推論	12	妥当性	13	論拠	14	推論	15	妥当性	16	論拠	17	推論	18	妥当性	19	論拠	20	推論	21	妥当性	22	論拠	23	推論	24	妥当性	25	論拠	26	推論	27	妥当性	28	論拠	29	推論	30	妥当性	31	論拠	32	推論	33	妥当性	34	論拠	35	推論	36	妥当性	37	論拠	38	推論	39	妥当性	40	論拠	41	推論	42	妥当性	43	論拠	44	推論	45	妥当性	46	論拠	47	推論	48	妥当性	49	論拠	50	推論	51	妥当性	52	論拠	53	推論	54	妥当性	55	論拠	56	推論	57	妥当性	58	論拠	59	推論	60	妥当性	61	論拠	62	推論	63	妥当性	64	論拠	65	推論	66	妥当性	67	論拠	68	推論	69	妥当性	70	論拠	71	推論	72	妥当性	73	論拠	74	推論	75	妥当性	76	論拠	77	推論	78	妥当性	79	論拠	80	推論	81	妥当性	82	論拠	83	推論	84	妥当性	85	論拠	86	推論	87	妥当性	88	論拠	89	推論	90	妥当性	91	論拠	92	推論	93	妥当性	94	論拠	95	推論	96	妥当性	97	論拠	98	推論	99	妥当性	100	論拠	101	推論	102	妥当性	103	論拠	104	推論	105	妥当性	106	論拠	107	推論	108	妥当性	109	論拠	110	推論	111	妥当性	112	論拠	113	推論	114	妥当性	115	論拠	116	推論	117	妥当性	118	論拠	119	推論	120	妥当性	121	論拠	122	推論	123	妥当性	124	論拠	125	推論	126	妥当性	127	論拠	128	推論	129	妥当性	130	論拠	131	推論	132	妥当性	133	論拠	134	推論	135	妥当性	136	論拠	137	推論	138	妥当性	139	論拠	140	推論	141	妥当性	142	論拠	143	推論	144	妥当性	145	論拠	146	推論	147	妥当性	148	論拠	149	推論	150	妥当性	151	論拠	152	推論	153	妥当性	154	論拠	155	推論	156	妥当性	157	論拠	158	推論	159	妥当性	160	論拠	161	推論	162	妥当性	163	論拠	164	推論	165	妥当性	166	論拠	167	推論	168	妥当性	169	論拠	170	推論	171	妥当性	172	論拠	173	推論	174	妥当性	175	論拠	176	推論	177	妥当性	178	論拠	179	推論	180	妥当性	181	論拠	182	推論	183	妥当性	184	論拠	185	推論	186	妥当性	187	論拠	188	推論	189	妥当性	190	論拠	191	推論	192	妥当性	193	論拠	194	推論	195	妥当性	196	論拠	197	推論	198	妥当性	199	論拠	200	推論	201	妥当性	202	論拠	203	推論	204	妥当性	205	論拠	206	推論	207	妥当性	208	論拠	209	推論	210	妥当性	211	論拠	212	推論	213	妥当性	214	論拠	215	推論	216	妥当性	217	論拠	218	推論	219	妥当性	220	論拠	221	推論	222	妥当性	223	論拠	224	推論	225	妥当性	226	論拠	227	推論	228	妥当性	229	論拠	230	推論	231	妥当性	232	論拠	233	推論	234	妥当性	235	論拠	236	推論	237	妥当性	238	論拠	239	推論	240	妥当性	241	論拠	242	推論	243	妥当性	244	論拠	245	推論	246	妥当性	247	論拠	248	推論	249	妥当性	250	論拠	251	推論	252	妥当性	253	論拠	254	推論	255	妥当性	256	論拠	257	推論	258	妥当性	259	論拠	260	推論	261	妥当性	262	論拠	263	推論	264	妥当性	265	論拠	266	推論	267	妥当性	268	論拠	269	推論	270	妥当性	271	論拠	272	推論	273	妥当性	274	論拠	275	推論	276	妥当性	277	論拠	278	推論	279	妥当性	280	論拠	281	推論	282	妥当性	283	論拠	284	推論	285	妥当性	286	論拠	287	推論	288	妥当性	289	論拠	290	推論	291	妥当性	292	論拠	293	推論	294	妥当性	295	論拠	296	推論	297	妥当性	298	論拠	299	推論	300	妥当性	301	論拠	302	推論	303	妥当性	304	論拠	305	推論	306	妥当性	307	論拠	308	推論	309	妥当性	310	論拠	311	推論	312	妥当性	313	論拠	314	推論	315	妥当性	316	論拠	317	推論	318	妥当性	319	論拠	320	推論	321	妥当性	322	論拠	323	推論	324	妥当性	325	論拠	326	推論	327	妥当性	328	論拠	329	推論	330	妥当性	331	論拠	332	推論	333	妥当性	334	論拠	335	推論	336	妥当性	337	論拠	338	推論	339	妥当性	340	論拠	341	推論	342	妥当性	343	論拠	344	推論	345	妥当性	346	論拠	347	推論	348	妥当性	349	論拠	350	推論	351	妥当性	352	論拠	353	推論	354	妥当性	355	論拠	356	推論	357	妥当性	358	論拠	359	推論	360	妥当性	361	論拠	362	推論	363	妥当性	364	論拠	365	推論	366	妥当性	367	論拠	368	推論	369	妥当性	370	論拠	371	推論	372	妥当性	373	論拠	374	推論	375	妥当性	376	論拠	377	推論	378	妥当性	379	論拠	380	推論	381	妥当性	382	論拠	383	推論	384	妥当性	385	論拠	386	推論	387	妥当性	388	論拠	389	推論	390	妥当性	391	論拠	392	推論	393	妥当性	394	論拠	395	推論	396	妥当性	397	論拠	398	推論	399	妥当性	400	論拠	401	推論	402	妥当性	403	論拠	404	推論	405	妥当性	406	論拠	407	推論	408	妥当性	409	論拠	410	推論	411	妥当性	412	論拠	413	推論	414	妥当性	415	論拠	416	推論	417	妥当性	418	論拠	419	推論	420	妥当性	421	論拠	422	推論	423	妥当性	424	論拠	425	推論	426	妥当性	427	論拠	428	推論	429	妥当性	430	論拠	431	推論	432	妥当性	433	論拠	434	推論	435	妥当性	436	論拠	437	推論	438	妥当性	439	論拠	440	推論	441	妥当性	442	論拠	443	推論	444	妥当性	445	論拠	446	推論	447	妥当性	448	論拠	449	推論	450	妥当性	451	論拠	452	推論	453	妥当性	454	論拠	455	推論	456	妥当性	457	論拠	458	推論	459	妥当性	460	論拠	461	推論	462	妥当性	463	論拠	464	推論	465	妥当性	466	論拠	467	推論	468	妥当性	469	論拠	470	推論	471	妥当性	472	論拠	473	推論	474	妥当性	475	論拠	476	推論	477	妥当性	478	論拠	479	推論	480	妥当性	481	論拠	482	推論	483	妥当性	484	論拠	485	推論	486	妥当性	487	論拠	488	推論	489	妥当性	490	論拠	491	推論	492	妥当性	493	論拠	494	推論	495	妥当性	496	論拠	497	推論	498	妥当性	499	論拠	500	推論	501	妥当性	502	論拠	503	推論	504	妥当性	505	論拠	506	推論	507	妥当性	508	論拠	509	推論	510	妥当性	511	論拠	512	推論	513	妥当性	514	論拠	515	推論	516	妥当性	517	論拠	518	推論	519	妥当性	520	論拠	521	推論	522	妥当性	523	論拠	524	推論	525	妥当性	526	論拠	527	推論	528	妥当性	529	論拠	530	推論	531	妥当性	532	論拠	533	推論	534	妥当性	535	論拠	536	推論	537	妥当性	538	論拠	539	推論	540	妥当性	541	論拠	542	推論	543	妥当性	544	論拠	545	推論	546	妥当性	547	論拠	548	推論	549	妥当性	550	論拠	551	推論	552	妥当性	553	論拠	554	推論	555	妥当性	556	論拠	557	推論	558	妥当性	559	論拠	560	推論	561	妥当性	562	論拠	563	推論	564	妥当性	565	論拠	566	推論	567	妥当性	568	論拠	569	推論	570	妥当性	571	論拠	572	推論	573	妥当性	574	論拠	575	推論	576	妥当性	577	論拠	578	推論	579	妥当性	580	論拠	581	推論	582	妥当性	583	論拠	584	推論	585	妥当性	586	論拠	587	推論	588	妥当性	589	論拠	590	推論	591	妥当性	592	論拠	593	推論	594	妥当性	595	論拠	596	推論	597	妥当性	598	論拠	599	推論	600	妥当性	601	論拠	602	推論	603	妥当性	604	論拠	605	推論	606	妥当性	607	論拠	608	推論	609	妥当性	610	論拠	611	推論	612	妥当性	613	論拠	614	推論	615	妥当性	616	論拠	617	推論	618	妥当性	619	論拠	620	推論	621	妥当性	622	論拠	623	推論	624	妥当性	625	論拠	626	推論	627	妥当性	628	論拠	629	推論	630	妥当性	631	論拠	632	推論	633	妥当性	634	論拠	635	推論	636	妥当性	637	論拠	638	推論	639	妥当性	640	論拠	641	推論	642	妥当性	643	論拠	644	推論	645	妥当性	646	論拠	647	推論	648	妥当性	649	論拠	650	推論	651	妥当性	652	論拠	653	推論	654	妥当性	655	論拠	656	推論	657	妥当性	658	論拠	659	推論	660	妥当性	661	論拠	662	推論	663	妥当性	664	論拠	665	推論	666	妥当性	667	論拠	668	推論	669	妥当性	670	論拠	671	推論	672	妥当性	673	論拠	674	推論	675	妥当性	676	論拠	677	推論	678	妥当性	679	論拠	680	推論	681	妥当性	682	論拠	683	推論	684	妥当性	685	論拠	686	推論	687	妥当性	688	論拠	689	推論	690	妥当性	691	論拠	692	推論	693	妥当性	694	論拠	695	推論	696	妥当性	697	論拠	698	推論	699	妥当性	700	論拠	701	推論	702	妥当性	703	論拠	704	推論	705	妥当性	706	論拠	707	推論	708	妥当性	709	論拠	710	推論	711	妥当性	712	論拠	713	推論	714	妥当性	715	論拠	716	推論	717	妥当性	718	論拠	719	推論	720	妥当性	72

例六						例五						問題番号	
(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	
「仁」が過ぎても君子とすることに問題はないが、「義」が過ぎると残忍な人になってしまうから。						ア、エ		植えて觀賞した人は亡くなってしまったそのあとに、依然として残る梢を見るにつけても、涙が誘われる。		a 「消え」は「露」の縁語である。 b 磨きつくろはれし庭		A 風情のある	
												D 物思いに沈んでぼんやりと見る	
罰疑（「罪疑」も可）						① すなわち ② けだし ③ ああ		書き下し 将に人を殺さんとす。		現代語訳 今にも人を殺そうとした。		その聖とは縁故があつたので	
												亡くなった恋人と過ごした思い出の場所を訪ねたので、恋人の面影が目の前に浮かび、涙で目の前が見えなくなつてしまった様子。	
無実の人を殺すよりは、法に従わない方がよい、と。						鯨を登用すること。		に、依然として残る梢を見るにつけても、涙が誘われる。		その聖とは縁故があつたので		A 風情のある	
												D 物思いに沈んでぼんやりと見る	